



蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆
近藤龍弘

〒940-0052
長岡市神田町1丁目4番10
TEL.0258-32-2811

◆スタッフ◆

小林国二・小林善秋・高橋潔・室賀清輝
高橋利春・加瀬由紀子・屋代健
近藤マリ子・近藤真弘・近藤善信
後援・株式会社アサヒ印刷・(株)北越時報社

ご家族の皆さままでご覧ください

迎春

今年も宜しく願ひ申し上げます。

翠巖弘

あつという間に新しい年を迎えました。年齢を重ねてくると一年が短く感じられます。私も今年には数え七十歳、「人生七十年古来稀なり」の古稀を迎えました。しかし、最近

医学が進歩したことや、国民が健康に気を付けるようになったせい、百歳を越えないと古稀といえない程、日本人の平均寿命が延びました。

また、最近では日本人の在り方、価値観・伝統文化・風習等々、大きく変わってきたように感じます。しかし、人の心は変わらず、ややもすると私共は「四苦八苦」の大海に喘ぐことも多々あるのではないのでしょうか。

先日、本棚を整理していると「仏教童話全集」が目に留りました。私が小

学生の頃、毎月一冊づつ送ってくるのを楽しみにして読んだ本です。その中で「仏様のお蔵」という話だけが今でも記憶に残っております。

内容は、昔の印度の一人の貧しい天涯孤独のお婆さんの話です。行く末を案じ、悪いと思いつつも牛乳を水で薄めて

売り、短期間で多くの利益を上げ、耳飾りを買えば、一生暮らしていけると喜んでいましたが、ある日綺麗な小川に落とし見つからずに泣いていると、ヒマラヤの山の麓に住んでいるスネアッシュ

（神通力があると信じられていた仙人とか坊さん）が通りかかり、探してくるよう頼みますと、水を売って買ったものだ

から元の水に戻ったとのこと。反省して泣いているお婆さんに「今後は嘘をつかず、人のためになることをすること、行いは仏様のお蔵に入り、水に変わった泥棒にとられることもなく、耳飾りより素晴らしいものになる」との教え。

その後、お婆さんは村人のため、困っている人の手伝い等、お金も受け取らず働いていると、最初は調法に利用していた村人も、偉い、有難いお婆さんと、皆に大事にされ、一生安楽に暮らしたということです。童話ではあります。『諸悪莫作・衆善奉行・自浄其意・是諸仏教』の七仏通戒偈の教え、人間の大事な生き方を分かりやすく教えてくれる話ではないのでしょうか。

【日々精進(三十一)】

四季の移ろいを感じながら

近藤真弘

「春は花、夏ほととぎす、秋は月、冬雪さえてすずしかりけり」

あけましておめでとうございます。昨年の暮れ十二月は例年になくお天気が日が続き、順調に冬囲いや落ち葉掃きなど、雪に備える準備が出来ました。

冒頭の歌はご存知の方も多と思いますが、道元禅師の詠まれた歌です。日本の四季を端的に、清々しく表す素晴らしい歌であり、本来の面目、あるがままの様子をわかりやすくとらえ、禅的にも深い意味合いをもっています。一九六八年にノーベル文学賞を受賞した川端康成さんが受賞記念講演でこの歌を引用され、多くの方に知られるようになりました。

日本は世界でも珍しい四季のはっきりとした国です。日本人はおおよそ三カ月で変わる四季それぞれを移り変わりととらえ、それぞれの楽しみを見出します。春は花見であり、夏は海水浴であり、秋は紅葉狩りであり、冬はスキーといったものが代表的で、食べるものもそれぞれの季節の食材を旬のものとして楽しみます。それぞれの季節には、それぞれ楽しみもあれば、辛さもあります。

昨年の暮れの話になりますが私が毎年楽しみにしている、あるコンテストがありました。以前、この季刊誌でも取り上げたこともありましたが、新聞広告クリエイティブコンテストというものです。日本新聞協会が主催し、

毎年テーマに沿った広告を募集して優秀賞を競います。

一昨年はテーマが「食」でした。最優秀賞の作品は「命の交換」というタイトルで、パックの開いた卵の写真に「あした、ぼくは、にんげんになる」とい

うキャッチコピーが載っていました。毎年色々と考えてもらえる作品が多く、時にはお話をする題材にも使えるので毎年楽しみにしています。

今年はどうな作品があるのかなあと調べてみると、まずテーマが「お金」



でした。お金がテーマではお話に使えない感じではないなあと思いますが、最優秀賞をみると、タイトルが「使用期限をお金にも」で、紙幣の中心の写真の上に同じく「使用期限をお金にも」と、キャッチコピーが書かれていました。やはり大変優れたおもしろい作品ではあります。お話には使いた

らいなあと思いますが、他の作品を見ていると、ある作品が目にとまりました。その作品は「偉人くらべ」というタイトルで、絵柄は中央に大きく「偉人くらべ」と書かれ、左には日本の紙幣に使われている学者野口英世、小説家樋口一葉、教育者福沢諭吉、右にはアメリカの紙幣に使われているワシントン、ジェファソン、リンカーンの顔があり、下に書かれた文章に「文化を愛する日本、政治を重んじるアメリカ。人を豊かに

にするには、どちらが大切なんだろう？」とありました。

確かに日本は文化を大切にしている国であると思います。そして、文頭にあげた四季の移り変わり。この四季の移り変わりが日本人の感性を豊かにし、その心に大きな影響を及ぼし、多くの文化人を生みだした要因であると考えられます。

四季が変わることによって当然ですが景色も変わります。今の季節の景色は今でしか見て、感じることはできません。四季がなければ見える景色は同じで、そこには何の感情もわかないのではないのでしょうか。

これから長岡は雪深い冬の季節が続きます。辛いこともありますが、そこから育まれる感受性を大切に、冬雪さえて涼しかりけりの気持ちで雪と向き合って過ごしていきたいと思えます。

仏像に秘められた魅力

株式会社放光 角山 伸一

初めまして。まずは自己紹介をさせて頂きます。会社は長岡市高畑町で寺院用仏具、仏壇、墓石の製造販売の株式会社放光の代表取締役を務めております。安善寺様とは約三十二年のお付き合いで、本堂改修、開山堂、位牌堂新築の際に内装工事、荘厳仏具を納入させて頂きました。

十一月の末にお伺いした時、ご住職から角山さんは全国の寺院を廻って本堂内を多く見ているだろうから、季刊紙の原稿を書いてくれないかとの話があり、お受けした次第です。

仏像には木像、石像、鍍像、そして色々なお姿をした仏像があります。写真は安善寺様仏殿の仏像です。中央は御本尊様の釈迦如来座像。印相(手の

形)右手は施無畏印、左手は与願印を結ぶ形。

この手の形は対するものに安心感を与える姿勢に由来するといわれ、他にも坐禅の時に組む定印、説法の釈迦如来で法輪を転ずる形など、数多くの形があります。



右側は文殊菩薩(獅子に乗っている)、左側は普

賢菩薩(白象に乗っている)。智の文殊に対して、行の普賢といわれ両者あいまって仏教の理想が実現されると考えられた。下の段にある二体は尊者と阿難尊者。お釈迦様の十大弟子で、その代表として奉られている。い

れる。他にも安善寺様には十六羅漢像、三十三観音像など、素晴らしい仏像が安置されています。ぜひゆつくりとお参りされてはいかがでしょうか? 皆さんは木喰上人をご存知でしょうか。江戸時代後期に活躍した遊行僧で歌人。また、全国各地を旅して千体以上ともいわれる仏像を彫った木喰仏で有名な仏師でもありません。作風は伝統的な仏像彫刻とは全く異なった様式を示し、一木一像で荒々しさの中に優しさと微笑みをたたえた素朴な仏像です。

新潟県とも縁が深く、約二百六十体が確認されていて、近隣では小千谷小栗観音堂の三十三観音像、小国町真福寺様の仁王像が代表作として有名である。

この仁王像は共に一本の樺の上下が使われており、身丈が二メートル四十センチメートル、重量が八百キログラム、一木で木喰上人が八十七歳の時に一体わずか十日間で仕上げたと仏像の背に上人自筆で記されています。また、私が今までに最も感銘を受けた仏像が奈良東大寺の大仏様(正式には盧舎那仏座像)です。天平時(七五二年)に造られ、高さ約十四・七メートル。中世、近世に二回焼失、現在の大仏は台座部分だけが当初造られたものであ



る。私縁ありまして、三年前、東大寺法要の折、須弥壇上に登り大仏様を触らせていただき、大変感激したことを今でもはつきりと思ひ出されます。下からでは見えない台座の蓮弁部分に華嚴経の世界観を表した図柄が線刻されているのを見て、ただその美しさに観とれるばかりでした。皆様の近くにもさまざまに仏像が安置されていると思いますが、一度じっくりと拝まれたらいかがですか? 何か発見があるかもしれませんよ。

大本山總持寺二祖峨山禪師 六百五十大遠忌法要と鎌倉・箱根の旅

恩田善夫

五十年に一度の大法要
大本山總持寺二祖峨山韶
碩禪師「六百五十回大遠
忌奉修」の年に参拝でき
るご縁をいただき感謝で
ありました。

峨山禪師さま大遠忌の
理念は「相承—大いなる
足音が聞こえますか」で
あり、相承とは正しい教
えを学び自身の生きる指
針とし、後につづく者に
伝えていくことが大切だ
と説かれています。

九月十三日から三日間
三十六名のバスの旅。車
中、安善寺住職さまから
峨山禪師さまの偉大な功
績や生涯について、もし
て瑩山・峨山兩禪師さま
の師弟関係では「両箇(二
つ)の月—月はひとつな
のに二つある」と師から
問うた有名な禅問答につ
いて。

更には、瑩山禪師さま
が能登に開山(一三二一
年)された總持寺は五百
七〇年間ほど栄えていた
が、一八九八年大火に遇
い、そのあと貫首になら
れた石川素童禪師さまが
大英断をもって本山を横
浜の現在地に移し(一九
一〇年)大本山總持寺と
称し、能登の總持寺は總
持寺祖院と改称された経
緯などの詳しい解説があ
りました。

添乗員さんご配慮のビ
ールをグイッ!と。名ガ
イドもあつて車中はすぐ
和やかに。

初日の自由昼食は、築
地場外市場で屋台が並ん
だような一三〇余の店舗
で。海鮮丼・寿司などな
んでもあり、百人余が行
列の「煮込み丼」はうまか
った。皆様方は何処で何



を...

国会議事堂本会議場へ
は六十五年ぶり。正面玄
関に立つ伊藤博文、板垣
退助、大隈重信の銅像は
幼き頃の見学を回想させ
てくれた。議事堂の前に
立つては、伝統と格式を
損なうことのないように
と念じつつ後にした。

偉容を誇る台大本山總
持寺。上山後間もなく修行
僧の案内で境内を拝観。火
災予防を考慮の百間廊下
を通り、仏殿をはじめ各堂
など拝観。根本道場であ
る大僧堂。起きて半畳寝
て一畳と言われるこの神
聖な空間では坐禅、食事な
どの規則正しい厳しい修
行が行われ、これを体験さ
れた僧侶さま方が各寺院
で護持・教化されている
のだと思うと感慨も一入
で釘付けになっていた。

薬石(夕食)は九品。彩
りよく美味な料理は修行
僧の手作りだと、感心。三
松閣(大講堂)にては、本
山放光堂司 川原敏光老
師から特別法話を。

總持寺では今でも朝の
お勤めの際「真読」といっ
て「大悲呪」というお経を
ゆつくりと読んでいます。
それは峨山さまが永光寺
での朝課を済ませ急峻な
山道十三里(五十二キロ)
を踏破され、總持寺の朝
課に参列されたという故
事に基づいてなされてお
り、ゆつくりと読むのは
峨山さまの到着を待った
ため、到着と同時に普
通のの速さに戻すとのこ
と。その他、七仏通戒傷
諸々の悪をなさず、すべ
ての善を行い自らの心を
浄くせよ—などを分かり
易く法話いただいた。

日が変わり、二日目は三
時半の振鈴(起床)ではじ
まり、大祖堂で厳肅な読経
のなか引き締まる思いで
供養・焼香をさせていた



だいた。小食(朝食)の後、大梵鐘(約十九トン)「平成救世観音」(東日本大震災被災者慰霊)などを特別に拝観して下山。

国指定の名勝三溪園(横浜市中区)は明治末から大正時代にかけて製糸・生糸貿易で財をなした原三

溪が造り上げた日本庭園で、東京ドームの約三倍の敷地に一四五〇年代に建築の旧燈明寺三重塔・本堂など十七棟に及ぶ歴史的建造物が移築されていて、それらが大池などと共に自然に見事に調和していた。八十路の名ガ

イドに恵まれたこともあってか、もう一度訪れた名園だった。大雄山最乗寺(神奈川県南足柄市)は、開創以来六百年の歴史を刻む関東有数の霊場。開山は了庵慧明禅師で五十歳半ばにて結んだ庵に座していた

ある日、一羽の大鷲が禅師の袈裟をつかんで足柄の山中に飛び大松の枝にかけた。この啓示があった禅師が一三九四年、老杉茂る山中に約一年で大寺を建立した。

二つの大太鼓の音が山中に響き渡るほどに打ち鳴らされての御祈禱は格別だった。独住職一九世石附周行山主から特別法話をいただき下山。

箱根湯本では、ゆつたりと温泉につかり、後に大宴会。和気あいあいの楽しい夕べであった。

三日目、鶴岡八幡宮は、一〇六三年源頼朝が源氏の氏神として由比ヶ浜に八幡神をお祀りしたのが起源。一九一一年源頼朝が現在地に祀った。境内の源平池や舞殿などの様々な史跡は八百年を超える歴史を語りかけている。大石段を上った本宮からは鎌倉の街が一望できた。臨済宗建長寺派本山建長寺(鎌倉市山ノ内)は、

鎌倉幕府五代執権北条時頼が一二五三年に建立の禅寺で、開山は中国から来日の蘭溪道隆禅師。北条時頼に請われて建長寺へ迎えられた。中国文化の受容、勉学の場として修行僧は千人を超えた時もあった。諸説ある「けんちん汁」は建長寺発祥の料理とか。

鎌倉の大仏さま(像の高さ十一・三二二メートル)は、建立時の資料がなく謎が多い。鎌倉時代中頃に木造の大仏さまと大仏殿が建立されたが、大風で倒れ、一二五二年に現在の青銅の大仏さまと大仏殿が再建された。

しかし、一四九九年の大地震による津波で大仏殿は流され露座の大仏さまとなった。津波が大仏さまの台座まで来たとは想像出来ない。阿弥陀如来さまにしっかり合掌。

この旅最後の昼食の折敷に。春は花 夏ほととぎす 秋は月 冬雪さえ

て冷しかりけり(道元禅師和歌集より)とあり、口ずさむとなぜか落ち着いた心静かな気持ちになったことが不思議。店主の思い入れさすが。

とにかく意義あり、感謝あり、楽しさいっぱいの旅でありましたが、締めくりは副住職さまからで、隅々にまでのご配慮・温もりのあるお言葉に感服いたしました。中でも、箱根のホテルに「脚下照願」が書かれてあった「足元に注意せよ、真理を外にはなく内に求めよ」が、ここまで広まっているのは喜ばしいこと、このお話には心打たれました。

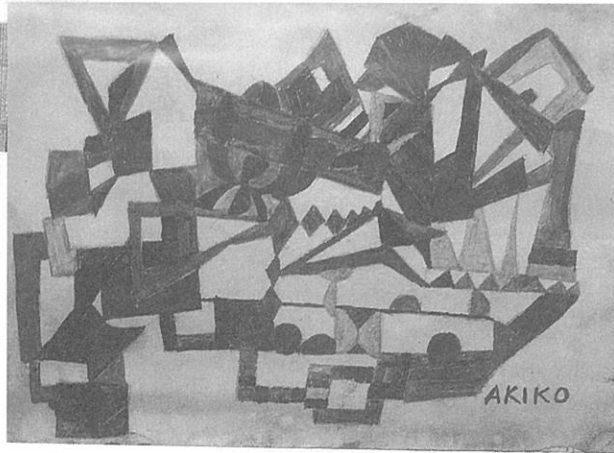
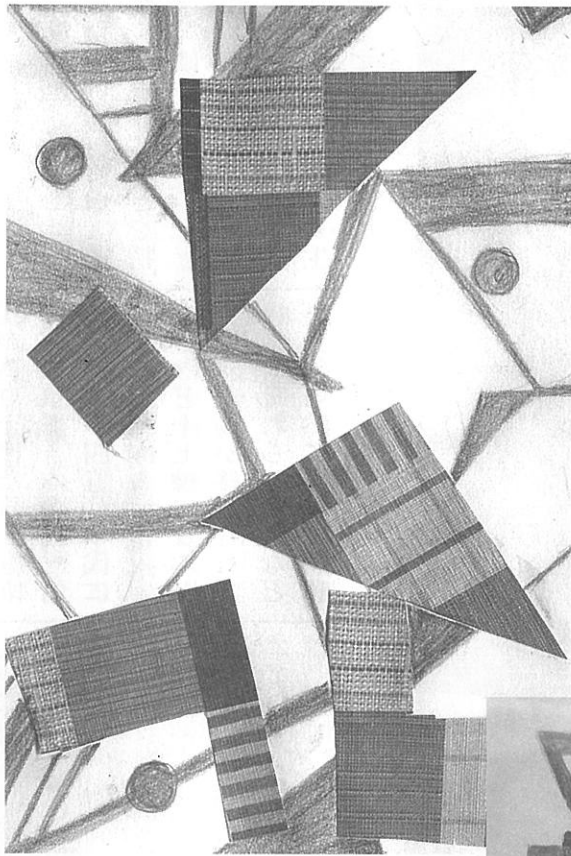
馬令重ねてなすべくもない日々の連続でありますが、この旅を通じ、とりわけ總持寺さまを参拝して「いま、ここが大切」なのだとの気づきをいただいた、有難い旅でありました。お世話になりました皆さま方に心から感謝申し上げます。合掌

両親の思い出を宝として一日一日を大切に

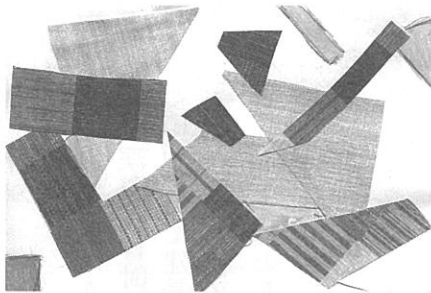
燕市 大原明子

父が平成二十三年四月に亡くなってからも、母は氣丈に生活していましたが、世の常でしょうが、晩年は病に臥しました。しかし、最後までしっかりしており、笑顔をたやさないで毎日を過ごしておりましたが、平成二十七年九月十五日に、享年八十八歳の生涯を閉じました。

写真は、私が折り紙でつくったものですが、これと私の描いた絵でカレンダーを作って、病床の母に見せたところ、大変喜んでくれた母の顔が思い浮かんでまいります。母の思い出に俳句を作ってみました。



・モクセイの 香りとどく 亡き母に
・秋の雲 手の届きそう
散歩道
・秋の山 迫る勢い 元
氣出る
今後も両親の思い出を宝として、一日一日を大事に暮らしていきたいと願っております。



2015

1 January							2 February						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	1	2	3	4	5	6	7
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28
25	26	27	28	29	30	31							

旅立ち

(平成廿七年九月〜十二月末日まで)

大原 ハル様 九月十五日寂

燕市小高

齊藤 キヨ様 十月十八日寂

長岡市西神田

広井 玉野様 十月廿四日寂

新潟市西区

石崎美榮子様 十一月十一日寂

長岡市石内

遠藤 芳美様 十二月廿七日寂

長岡市中島

芳川 重雄様 十二月七日寂

神奈川県川崎市

ご冥福をお祈りします。



旬歌 愁灯

[三十七話]

「ラ・マルセイエーズ」

加瀬由紀子

気だるい夕風吹く七月のシャンゼリゼ通りを歩いてきたのは、もう十年前になるだろうか。街路に張り出した赤いテントが目印の、メゾン・ダルザス。テラスに腰掛け、語り合うカップル。カルバドスだろうか、グラスを手にご機嫌な老紳士。

三々五々、広い通りを行き交うのは、闇に溶け込むようなアフリカ系、ワシ鼻のアラブ系、目のきついのはインド人？平たい顔は東洋系か…。さまざまな人種が入り乱れる国際都市、パリ。

よそよそしさの中に入り込めば、安らぎを覚えるのが不思議な都市でもある。「自由」のうえに成り立つ「個」の尊重とでも言おうか…。

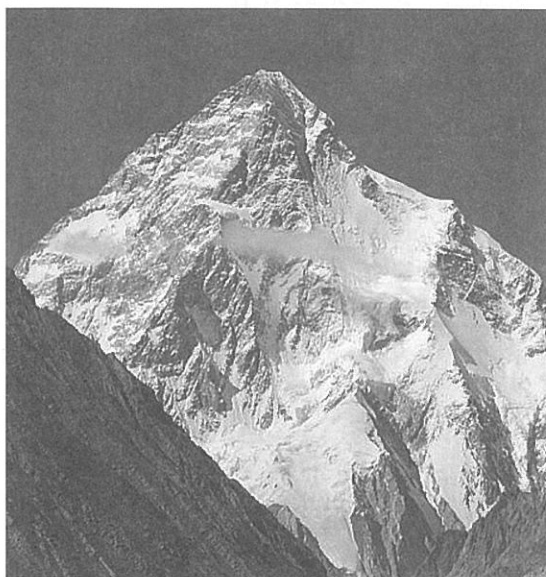
その自由を一瞬にして、ISの同時多発テロがパリ市民を、いや世界中を恐怖に陥れてしまった。昨年この事件を知ったのは、小松由佳さんの講演会後の休憩時間だった。

小松さんは、日本女性初のK2登頂者で、2016年度「植村直巳賞」受賞者として知られる。「8611mの山頂で成功の交信をしたり、写真を撮ったりで、時間がなくなってしまう。8200メートルでビヴァークを余儀なくされ、死への恐怖が登頂の喜びをかき消した」と過酷な登攀を小松さんは語った。

やがてシリア人男性と彼女は結婚。おめでたの身体での講演に、テロのショックはいかばかりだったろうか。

丸太の義足をつけ微笑む男性、無心に遊ぶ子どもたち、動物。彼女のファッションダーには、血塗られた死体や、逃げ惑う市民の姿はない。貧しいながらも平穏な生活の一コマが写っている。

その人々が、報復爆撃によって残像となってしまう悲しみ、怒り。難民になる余裕もなく、飢えと



世界一登るのが困難と言われるK2



小松由佳氏(右)と筆者

丸太の義足をつけ微笑む男性、無心に遊ぶ子どもたち、動物。彼女のファッションダーには、血塗られた死体や、逃げ惑う市民の姿はない。貧しいながらも平穏な生活の一コマが写っている。

その人々が、報復爆撃によって残像となってしまう悲しみ、怒り。難民になる余裕もなく、飢えと

戦火に怯え、死者としてカウントされることもないシリアの市民こそ一番の犠牲者といえる。

フランス国歌「ラ・マルセイエーズ」を事件後、よく耳にするが、むしろシリアの国歌や国旗を半旗に掲げる方がふさわしいと思うのは私だけか。

日本は難民について厳しい条件をつけており、昨年は五千人の難民申請があったにも関わらず、十一人しか認められなかったという。国際社会に

ボブの独り言



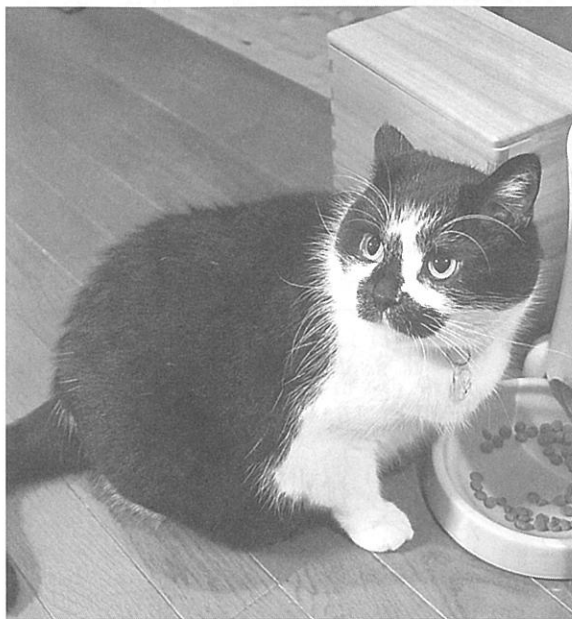
良い一年でありますように

ボブの独り言

あけましておめでとう
ございます。

今年はサル年です。干支を決める時に私たちがより小さな鼠が入っていたのですが、何故か猫が入っています。入っていれば十二年に一回は置物として飾ってもらえたのですが…。

私はというと昨年の師走に入った頃「ボブ少し動きが鈍くなったね！洗面所に置いてあるコップにもジャンプ出来ないから」と言われ、動物病院に連れて行ってもらい、血液検査をして頂きましたが、検査結果を聞いてショックでした。「異常なしですね！動きが悪いのは、単なる脂肪が多いから…」だそうです。少し体重を減らさなければ…。春になったら真剣に考え



ることにして、寒い間は炬燵で丸くなっていようと想っています。

最近、庭を散歩していると、十一月なのに春に咲く「つつじ」、いつもだと冬囲いの中から可愛い花を覗かせている「ツバキ」、まだまだこの季節に咲く花以外の花々が咲いているのです。

何年か前ですと、季節外れの花をみかけると、「わあー可愛い！」なんて思ったのですが「気候が変わって来てしまったのでしょうか？」。

昨年、七五三を迎えた真人君、ちようど十一月も半ば、真人君の幼稚園で「祖父母参観」があるということで、久美さんのご両

親も来ていただけるとい
う連絡があり、七五三も
合わせてお祝いすること
になりました。羽織・袴
姿がとても良く似合い、
本人も満足の様子でした
が、着慣れない衣装で何
度も着崩れていました。

来々、幼稚園に行く悠
真君もようやく、家族に
分かるような会話ができ
るようになりましたが、
何故か「・・でー」と関西
弁が飛び交うことがしば
しば…。

この一年、良い事も悪い
事もあると思いますが、
サル(去る)年なので、悪
い事は去って良い一年で
あつて欲しいと願ってい
ます。

ニヤーン

編集 雑感

明けましてお
めでとうござい
ます。

毎々この広報をお読み
戴き感謝申し上げます。早
いものでこの広報は十七
年の月日が経ちました。十
七年前の初月忌供養の親
睦会会場で当時株式会社
アサヒ社長であつた安藤
氏とご住職とで広報をや
ろうと決め、お声がけ下さ
ったのがスタートでした。
安善寺のことや仏教のこ
といろいろな教えを発信
しようと始めたのでした。

それから十七年、故安藤編
集長の後を継ぎ年4回季
刊誌として皆様にお読み
戴いております。
それと同時にこの季刊
誌は安藤氏の意思を次い

で現在のアサヒの伊藤社
長が全面援助してくれて
います。それがなければ発
刊はあり得ませんでした。
スポンサーを続けて戴い
ているアサヒ様伊藤社長
様また安藤令夫人様本当
に感謝申し上げます。読者
・編集委員・安善寺に成り
代わりここに厚く御礼申
上げます。

出来るだけの継続をお
願ひしたく今後とも宜し
くご協力をお願いします。
そこで問題なのは季刊誌
の内容です。仏教を正しく
広報せねばならない季刊
誌が、コミュニティ感覚の
紙面になってしまってい
ます。お寺に気軽に越し
下さいとのメッセージを
込めているのでいろいろ
な方々を紹介することが
多くなり本来の姿が影を
潜めたところご指摘もあ
りました。紆余曲折で紙面作
りを行っていますが、十七
年も経つと発想が悪くな
りますが、それも考慮しつ
つ編集委員は努力を重ね
ますので今後とも宜しく
ご愛読下さい。

小林国三 編集委員長

お便り原稿用紙

皆様の読者の皆様と、ごいっしょに誌面をつくりながら、コミュニケーションを深めたいと思います。
ハガキまたはお手紙、ファックスなどで、お気軽にお便りをお寄せください。お待ちしております。

原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のしきたりや疑問（編集部や住職がお答えします）など。
- 嬉しい・楽しい/嬉しかったこと、楽しかったこと、悲しかったこと、怒ったこと。

第七十三号、春号は平成二十八年三月十日(木)発刊予定です